

義太夫

義太夫協会会報
第87号

平成20年7月15日

社団法人 義太夫協会発行
〒104-0061 東京都中央区銀座
4-13-11 文明堂3F
TEL・FAX (3541) 5471
<http://www.gidayu.or.jp>

女流義太夫演奏会のいま

波多 一索

本牧亭から数えて五十余年にわたる女流義太夫演奏会が、毎月脈々と受け継がれていることは、観客の皆様の暖かいご支援、出演者スタッフの皆様の情熱によるものと有り難く思っております。

一昔前は、庶民の娯楽として広く深く根付いておりました義太夫も、時世の変化、娯楽の多様化の波にのまれ、今日ではその開催も経済的にはいつも厳しく、毎回年度末になるとその先行きのことが話題にのびります。本年も公演の観客数が、いまより少しでも増えるように全員で努力を重ねたいものです。

話は変わりますが、昨年は久し振りに歌舞伎の海外公演が話題になりました。もっとも松竹が手掛けた海外公演はこれ迄に五十九回三十三か国に及び、国際的な文化交流の折に歌舞伎公演が欠かせない存在として定着してきたといっても過言ではないと思えます。

当協会でも乙女文楽のロシア公演(土佐恵土佐子ほか)やフランス公演(越孝、三寿々)に参加された方々がおられます。

ことに、昨年の市川團十郎、海老蔵親子によるパリ公演の「勸進帳」、中村勘三郎・平成中村座のニューヨーク公演の「法界坊」、坂田藤十郎の中国公演「傾城反魂香」と並べてみると、単なるよそいきな顔見せ公演ではなく円熟期の役者の方々による極めつきの狂言ばかりで、まさにわが国を代表する演劇に相応しい内容だと思えました。一際目をひいたのは世話物の「法界坊」で、見た目の美しい舞踊劇でも、ドラマとして優れた時代劇とも言えない演出にまず驚ろかされました。

独り言のような捨て台詞の多い、しかも全体では二時間余りを要する芝居が、青い目の外人の方々にはたして通用するものだろうか正直疑問を感じました。ところが、辛口で知られるニューヨーク・タイムズの評は大絶賛で、これまたびっくりしました。

しばらくして、その折の公演の様子がテレビで放映され、ご覧になった方も多いと存じ

ますが、初めてなるほどと合点がきました。それはまさに文字どおりの奮闘公演で、言葉の通じない青い目の外人の観客に向かって、身振り手振り半分は英語を交えた台詞(大変な事前学習をされたよし)、しまいは舞台から客席において相手の名前を呼び掛けながら懸命に話の内容を伝えようと、汗ビッシュヨリで演技されている勘三郎の姿をみるに及んで、私は久し振りに言葉にならない感動を覚えました。

今日、はじめて浄瑠璃を聞かれる若い観客の方にとっては、日本人も外人もその内容の理解度はあまり変わらないはずで、要は観客に分かってもらいたいという私どもの熱意の違いが成功不成功の違いになるのではと、テレビを拝見しながら反省した次第です。

平成二十年 通常総会終了

去る六月二十七日(金)築地社会教育会館 二階 第五洋室に於て、定例の社団法人義太夫協会の総会が開かれました。昨年度の事業報告、並びに決算報告が承認されました。



思いで 本牧亭・女流義太夫 その(一)

池田 弘 一

協会には詳しく正確な記録の類がたくさんある。私はそれとは別に内部からの目ではなく、客席の一人として、私を大いに楽しませてくれた本牧亭での女流義太夫との日々を、とりとめなく語らせていただく。

一、聞き始め

「書生さん、お前さん好きだねえ、夜の義太夫も面白いよ。聞いてったらどうだい」と私に声をかけてくれた年配のご定連がいた。講釈の昼席でのことである。それが女流義太夫との縁のつながり始めである。義太夫を知らなかったわけではない。昭和十二、三年ころ、父に連れて行かれた鈴本で結城孫三郎の糸あやつりで「弁慶上使」とか「三番叟」とかを見もし、聞きもしていたし、戦中から芝居に通って太棹の響きにも魅力を感じていたが、さて、毎月、月はな四日の公演に通いつめてみると、それまで抱いていたなんとはなしの印象はさっぱりと変わった。

東上してくる「文楽」の名だたる人たちの演奏から受ける感動とは全く別種なものが本牧亭の女流義太夫公演にはあったのだ。

遠いところの立派な舞台の上で演じられる芸とは違う、うまいもまずいもありありとわが身に迫ってくる、演者そのものがさらけ出されていた。今の演芸場では舞台のむこうの

立派な山台におさまりかえったものを感じることもある。ごく少数の演奏者は物理的な距離の幕を突き破って聞き手の胸に飛び込んでくるのだが。私の聞き始めたころの女流義太夫は、文楽の名人が与えてくれない身近かな感動と喜びを与えてくれた。

中入りの終わりに、あくる晩の語り物が若手の声で披露された。「初番(段)宝の入り船、いりと相い勤めます」、これがわからなかった。尋ねるのもしゃくだから、開場を待ちかねるようにして早々に客席のいちばん前に陣取る。だが、とうとう「宝の入り船」を聞くことはなかった。おろかしいことだが、どこの会にも早々に入る、そんなくせは女流義太夫からついたのだ。

「新版歌祭文、野崎村の段。竹本土佐廣、豊澤猿幸、鶴澤三生、連れ弾きにて相勤めます」という触れを聞くと、客席から期待のどよめきがおこり、実はその瞬間からあくる晩の演奏は私の胸のうちに始まることになるのである。当然、私は翌日のしかるべき勤めをはしよって、昼席に駆けつけ、松鯉の鬼薊の梅吉だの、若燕の姫妃のお百だのを聞き、そのまま居続けて土佐廣の久作・お光にため息をつき、オクリの連れ弾きに酔ったのであった。

二、本牧亭という建物

「二階に高座あり、客席から高座へ上る、楽屋は下の座敷。近頃の楽屋の入口が客の入口になっていた」と、岡本文弥は昭和二十三年十二月二十五日の新内鑑賞会当時の本牧亭の構造を語っていた。

また、席亭だった石井英子は、「この場所を建てたのが昭和二十三年でした。ろくに人の住む家もない当時、寄席の新築など許されず、たしか芸人たちの合宿所という名目で許可がおりたのです」と言い、昭和二十四年におりた営業許可の鑑札があると語っていた。

私の記憶にありありと残る初期の本牧亭は表通りから入って五十メートルほど行った左側、木戸を入ると右手に帳場、左手が下足場。あがると二足、三足で幅の広い階段、その階段の裏つては廊下で、その右側は碁会所ともなり、前進座がやった『巷談本牧亭』での主要な舞台ともなった座敷。廊下の左側は小さな庭。廊下の突き当たりにも階段があって客席の後方に通じる。

さて、表の階段をあがると右手に高座がある、そのうしろが狭い楽屋。そこへの入口がある。服部伸は階段をあがりきると、客席に向かって一礼し、それから楽屋に入った。客席の頭かすにかかわりなく深か深かと頭を下げたものだ。階段をあがった左手には建増しを思わせるように外にちよっと出っ張ったお茶場があり、席亭、その娘、お茶子が控えていて、客があがってくると座布団を持って好みの場所までついて行き、お茶、煙草盆の注文をとった。昼席はいつもすいていたが、夜席の義太夫は賑わった。いつも同じ場所に落ち着いている定連。神田松鯉は客席のうしろの板敷につぐむようにしていた。岡本文弥はお客の中にうずもれるようにしていた。私はそのめだたない姿に真似のしようのない美を

催の日本フェスティバルに招聘される形で行われた。イエール市では二三日、国立高等音楽院でデモンストレーション、そしてドニー劇場での公演を行って好評を博し、地元紙によるインタビューを受け、記事となった。

またイエール公演の道中にパリが含まれるため、パリでも公演できるようC・コリーヌ氏が約一年かけて日本及び現地にて検討および交渉、三寿々も現地に赴いて交渉を行った結果、多くのフランス人の協力のもとにパリの諸公演が実現した。

パリでは、二六日に国営ラヂオ局 (France Culture) でインタビューと演奏の収録 (二〇〇八年一月二十日放送)、二八日に国立東洋語学校でデモンストレーション、そしてパリ日本文化会館で公演を行った。南仏公演と合わせて約一週間かけて行ったフランス公演のチケットは全て完売、何十人ものキャンセル待ちが生じるほどの盛況ぶりであった。

公演内容は『義経千本桜』より静御前道行、『一谷嫩軍記』組討の段。前者は人形遣い吉田光華による実演、静御前の映像をバックに流したが、後者は映像も字幕もない、純粹な素浄瑠璃だった。しかし、C・コリーヌ氏によって演奏前に作品解説があったため「言葉の細かい意味は分からなくても、どんな場面を語っているかは容易に想像できた。」「語りが沢山の表現をしていることに感動した。」という感想があがった。

素浄瑠璃という演奏形態は、話を聞いたり朗読を聞いたりする習慣が色濃くあるフラン

ス人の気持ちをつかんだのであろう。現地在住の日本人も来場し、日本では聞いたことのないような義太夫に初めて触れ、涙ぐむ人もいた。

水野悠子氏によると、古くは大正四年からアメリカ、台湾、満州、京城など、少なくとも九度の女流義太夫の海外素浄瑠璃公演を認めることができるが、いずれも現地在住の日本人向けの公演であり、今回のように、現地の人を対象としたいいわゆる海外公演とは性格を異にするという。

アンコールに応えたり、演奏終了後にサインを求められたり、行列が出来たり、観客に記念写真を求められたり、演奏のスケッチをプレゼントされたりと、終始フランス人の尽きぬ興味に押されっぱなしの公演ツアーであった。



パリ日本文化会館公演を終えて

\$\$\$\$\$

オランダ紀行

\$\$\$\$\$

平成二十年三月、オランダとオーストリアにて「ワールド・ミュージック・シアター・フェスティバル」が開催されました。日本は乙女文楽・吉田光華さんと八王子車人形の公演を行い、越孝・越春・津賀榮・弥々が下座として参加しました。

演目は、車人形による『三番叟』で幕開け。次に琵琶語りと津軽三味線・篠笛による乙女文楽の新作『雪女』。それから春の風景に一転して、乙女文楽『道行初音旅』。最後に車人形『日高川入相花王』。

全十公演とも、現地の言葉に翻訳した字幕スパー付き。さらに開演前にロビーで「本日の演目について」「人形の仕組み」等を解説してくれました。

日本と違うのは、開演時間が遅いこと。平日は夜八時半位にスタート。終演後宿舎に戻ると真夜中で、この生活に慣れるのが難儀でした。

オランダは質実な国柄で、夜八時にもなる店じまい。その頃は人通りもまばらになるような小さな街にも立派な劇場があり、連日大賑わい。芸能観賞が日常生活の一部分になっている様子です。また三百年前の建物という劇場が残っており、そこで公演させて頂いたことは感激でした。



斬新な所では、カジノと隣接している劇場（社員食堂にビリヤードがあった）。元プールだったのを改築したという、あやしげな劇場（あちこちに配水管が残る）。

どの劇場にもしゃれたラウンジがあり、終演後お客様はそこでお酒や軽食を楽しみながら、芝居談義に花を咲かせるのが常のようです。私たちが帰ろうとロビーを横切るや、「あなた、さっき出ていた方ね！」と飛んできて、感想を切々と語ってくれるのです。しかし残念なことに、それを完璧に理解する語学力がありませんでした。

中には床本に興味を持った方がいました。「その本には楽譜が書いてあるのか？」と尋ねるので、「いえ、文章だけです。音程や節は頭の中を書くのです。」と説明し本を見せる

と「オオ！」と驚かれました。縦書きなのが衝撃的だったようです。

アクシデントが一つ。オーストリア公演に向かう折、飛行機乗り換え先のロンドンが悪天候で大荒れ。命からがら出発したはいけれど、空港自体が大混乱だったため、車人形の道具がロンドンに置き去りになるという最悪の事態となりました。さあ公演をどうするか。「日高川」上演は不可能。「三番叟」は素浄瑠璃で演奏。義太夫・琵琶・津軽三味線のワークショップを急遽入れ、車人形さんが解説と舞台転換に奮闘してくれました。乙女文楽の人形は無事で、二演目とも上演できたのが不幸中の幸いでした。

それ以外はトラブルもなく、無事に勤めを果たして帰国の途につきました。

何年か後に、彼らは私たちのことを思い出してくれるでしょうか。「日本から、人形芝居が来たことあったなあ。あれ、もう一度観たいなあ」と。

わずか三週間の滞在でしたが、何かを残して来られたとしたら、こんな嬉しいことはありません。

義太夫教室OB演奏会開催

三月九日(日)、毎年恒例の義太夫教室OB演奏会がスペースFS汐留にて行われました。第六十期義太夫教室の生徒さんも、この公演で成果を発表しました。

ぎだゆう座五十回記念公演

六月一日(日)、二日(月)に、上野広小亭にて、ぎだゆう座第五十回記念公演が行われました。平成十二年四月から始まり、偶数月の一日、二日、に公演を行い、このたび第五十回を迎えることとなりました。当日はおかげさまでたくさんのお客様にご来場いただき、ささやかな粗品を進呈。竹本越孝によるご挨拶に続き、ひとみ座乙女文楽の客演が華を添えた三番叟、絵本太功記より尼ヶ崎の段を上演しました。



かわいい初舞台

平成十九年十二月九日、大日本素義会で、賛助会員、石井千明さんの長女美夕ちゃんが「裏門の段」で初舞台をふまれました。なんとピカピカの一年生です。



ほんに気がメーリヤス(五杯目)

鶴澤慎治

地歌に由来するメリヤスを通して、義太夫節・歌舞伎竹本と地歌の歴史を照らし合わせると面白いものが見えてくる、という前号でのお話でした。

元祖竹本義太夫によって始められた、義太夫節による人形浄瑠璃が大流行し、それらの演目が歌舞伎に取り入れられたことが、現在に至る歌舞伎の性格、俳優の演技に大きく影響を及ぼしているのは皆様すでによくご存じのことと思いますが、その移入に際し、その演劇形式と切っても切れない関係にあった音楽、つまり義太夫節を、歌舞伎舞台で演奏する職分として成立したのが「竹本」である、というのが、通り一遍の竹本の解説になります。

正徳4(一七二八)大坂荻野八重桐、嵐三右衛門座での『天神記』(近松作、おなじみ『菅原伝授手習鑑』の先行作品)の役割番付に、浄瑠璃演奏者の名前が明記されていることから「恐らくチョボの嚙矢なるべし」(邦楽年表)、つまり竹本っぽいものの始めであろうとされていますが、実際に人形浄瑠璃の歌舞伎化が盛んになるのは享保期以降で、人形浄瑠璃で当たりを取った演目は矢継ぎ早に歌舞伎化される、という、現在で言えば、人気の

漫画やアニメがTVドラマ・映画化されるのと同じようなことが、丁度300年前の上方で繰り返されていた訳です。

よく「竹本はテレビや映画のナレーションの役割を果たすものである」という解説を耳にいたします。

最近では、30年来その人気を保っている某有名ロボットアニメの新シリーズのナレーションを、30年前主役の声を演じていた声優さんが勤める、というので話題になりましたが、一概にテレビにせよ映画にせよ、映像技術の発達もあり、「見れば分かる」ことにいちいちナレーションを付ける、ということは(副音声の解説やテロップは別として)少なくともきていっているように思います。

ここで脱線ついでに、竹本成立についての、実演者としての私見を述べさせて頂きますが、笑って読み流して頂ければ幸いです。

例えば、このような浄瑠璃があったとします。

悲しいわいのと泣き沈む

通常こうした詞章には「スエテ」という節が当てられます。即ち口三味線で表すと、チチチン、悲しいわいのと、シャン、泣き沈む、ジャラン。

この詞章を含む場面が歌舞伎化されるときは、十中八九こうなります。

俳優 (くセリフ色々あって) 悲しいわいのウ(ト 泣き沈む)。

竹本 チチチン、悲しいわいのと、シャン、泣き沈む。

役者さんは文字通り「泣き沈んで」いるし、自分で「悲しい」と言っているのにも関わらず、元の文句と節を残して竹本に語らせるわけです(もちろん、カットされることも多々あるわけですが)。

実際、テレビや映画で同じようなシーンがあった場合、竹本はもちろん(笑)、大抵はナレーションも入りません。なぜか、というと、それは一言で言えば「見れば分かる」からです。ならば、歌舞伎では、なぜ「見れば分かる」のに、ナレーションに、ご丁寧に節まで付けた竹本が入っているのでしょうか？

実はそこに、歌舞伎において竹本が入る演目(義太夫狂言と、その中で演奏される音楽)竹本という職分がたどってきた歴史をひもとくカギがあるのではないか、と思うのです。

(以下次号)

第19期

歌舞伎音楽「竹本」研修生募集

*応募資格等に関しては国立劇場養成課

〇三(三二六五)七一〇五に

お問い合わせ下さい。

お役立ち情報

江戸に学ぼう

江戸しぐさ

今から遡ること、二百有余年。江戸の町は文化水準が高く、又犯罪一特に凶悪犯罪の少なさでは、世界史上稀な社会であったそうである。それに一役買っていたのでは？といわれているのが、今回紹介する「江戸しぐさ」です。数年前、コマーシャル等で取り上げられ、ご存知の方も多いと思います。

もともと「繁盛しぐさ」と言い、人間関係を円滑にするための知恵として、江戸商人の間で、口伝えされて来たものです。

それが「人間学」として、商人に限らず、子供からお年寄りまで多くの人々の人づき合いの基本となっていたようです。

昨今、江戸しぐさが見直され、学校や企業で勉強会が開かれているとの事です。かの、接客のお手本といわれているデイズニールランドの社員(キャスト)教育にも、江戸しぐさの精神が取り入れられているとか。

八百以上あるという江戸しぐさ一ほんの一部しか紹介できませんが、これをきっかけに興味を持ち、「江戸しぐさの達人」になって頂けたら...と思います。

往来しぐさ

肩引き一人とすれ違う時に、右肩、右腕を

後ろへ引いて、互いにつづらないようにするしぐさ。混み合う江戸下町ならではのもの。

傘かしの雨や雪の日、互いに濡れないように、傘を人のいない外側にすっと傾けてすれ違うしぐさ。

駕籠止めしぐさー駕籠に乗れる身分になっても、訪問先の少し手前で降りて歩く。門前に横付けするのは、野暮とされた。

相手を尊重する江戸しぐさ

時泥棒をしないー相手の都合を考えず、いきなり押しかけることを「時泥棒」といい、弁済不能の十両の罪といわれた。

三脱の教えー初対面の人には、年令、職業地位を聞かないルール。本当の人間を見る観察力、洞察力が曇らないため。

結果わかまえー自分の立場、力量、器量を客観的に把握しておくこと。立場をわかまえず、何にでも口を出し、他人の領分を侵す者は嫌われた。

言葉使いと応待の江戸しぐさ

お互いさまー道に迷っている人など、困っている人に手を貸してお礼を言われたら、「お互いさま」。江戸しぐさの共生の精神がよく表れた言葉。

戸閉め言葉は心が狭いー「でも」「だって」「しかし」など、戸を閉めて相手を中に

入れようとしないう言葉をいわず、まずは素直に相手の言うことを聞く姿勢が大切。

見てわかることはいわれないー面と向って「太

ってますね」は論外。又汗を流している人に「汗をかいていますね」といっても何の役に立たないが、すぐに冷たい水や手拭を差し出し、相手へ行動を伴って思いやる事が大切。

そんなに偉い方とは知らずは禁句ー後で相手が身分のある人とわかってても、この言葉を言っただけでいいとされていた。偉くない人なら失礼をしてもいいという意味にとれるからで、互角の付き合いを信条とする江戸商人ならではの江戸しぐさ。どちらへと聞かないー江戸では、個人のプライベートを大切にしていたので、人の行先を聞くのは失礼とされていた。

心を磨く江戸しぐさ

お心肥ー江戸しぐさの真随ともいえる言葉。人間はおいしいものを食べて体を肥やす事ばかり優先するが、それ以上に心を豊かにし、人格を磨くことに努めるべきだという戒め。

陽にとらえてー何事も明るい方向にとらえて対処する。今の言葉でいうならば、ポジティブシンキング!!

※参考「江戸しぐさ」完全理解 越川禮子他 (三五館)



協会の動き

08年1月より
08年7月まで

1月6日 「素浄瑠璃の会」 於お江戸日本橋亭
1月12日 「ぎだゆう座」 初春公演
於お江戸両国亭

1月18日 普及部会
於協会資料室
1月19・20日 駒清勉強会
於回向院

1月28日 女流義太夫演奏会「万歳」他
於国立演芸場
2月1・2日 「ぎだゆう座」二日間
於上野広小路亭

2月6日 編集部会
於協会資料室
2月6日 悠遊ライフ芸能講座「一谷嫩軍記」
3月21日 を体験しよう」全四回
於芸能花伝舎・国立演芸場

2月13日 OB会ホール打合せ
於スペースFS汐留
2月16日 鶴澤津賀花研発表会
於お江戸日本橋亭

2月27日 女流義太夫演奏会第二十七回
伝承者研修発表会「一谷嫩軍記」
於国立演芸場

3月1日・2日 「じよぎ」公演 二日間
於上野広小路亭

3月5日 常務理事会
於協会資料室
3月8日 都民のための邦楽演奏会
於国立小劇場

3月8日 理事会
於国立小劇場

3月9日 義太夫教室OB演奏会
於スペースFS汐留

3月13日 第60期義太夫教室閉講
於TKビル

3月21日 総会
於国立演芸場

3月21日 女流義太夫演奏会「釣女」
あつきひがし座出演 於国立演芸場

3月22日 義太夫協会OB懇親会
於華龍飯店

4月1・2日 「ぎだゆう座」二日間
於上野広小路亭

4月4日 CD公開録音
於新橋ニッパースライブ

4月11・12日 第5回 はなやぐらの会
於ほり川

4月15日 備品部作業日
於本郷稽古場

4月20日 一日体験教室
於TKビル

4月22日 女流義太夫演奏会「本蔵下屋敷」
於国立演芸場

5月1日・2日 「じよぎ」公演 二日間
於上野広小路亭

5月3日 道行の会
於新橋ニッパースライブ

5月7日 編集会議
於協会資料室

5月7日 越孝を聴く会
於上野広小路亭

5月11日 第四回 吉遂会
於かくえホール

5月22日 女流義太夫演奏会「十種香から
奥庭狐火」他 於国立演芸場

5月24日 第87回 大日本素義会
於鳥越神社白鳥会館

5月26日 義太夫教室第61期開講
於TKビル

5月29日 理事会
於協会資料室

6月1・2日 「ぎだゆう座」50回記念公演
二日間 於上野広小路亭

6月10日 第6回 たつみ会
於上野広小路亭

6月12日 H O T ひといきコンサート
於静岡市庁舎ラウンジ

6月22日 第七回 素浄瑠璃の会
於竹隆庵岡埜

6月24日 女流義太夫演奏会「弁慶上使の段」
他 於国立演芸場

6月27日 平成20年度総会
於築地社会教育会館第5洋室

7月1日・2日 「じよぎ」公演 二日間
於上野広小路亭

7月3日 第13回 越孝の会
於内幸町ホール

7月15日 会報第87号発行

今後の予定

7月20日 女流義太夫ミニコンサート at ほり川

8月9日 道行の会 第2弾「義経千本桜」
於新橋ニッパースライブ

8月30日 一日体験教室
於回向院

9月29日 土佐恵の会
於江戸資料館

寄付

大日本素義会様 三万円

寄贈品

西聰太郎様 協会公演プログラム等
竹本連中様 上がり糸